

著者紹介（執筆順）

■ 松方冬子（まつかた・ふゆこ）

東京大学史料編纂所・教授。オランダ語史料と日本語史料を併用し、日本の近世を中心に世界の外交史を研究している。著書に『オランダ風説書―「鎖国」日本に語られた「世界」―』（中央公論新社、2010年）、『オランダ風説書と近世日本』（東京大学出版会、2007年、角川源義賞歴史研究部門受賞）、編著書に『国書がむすぶ外交』（東京大学出版会、2019年）、『日蘭関係史をよみとく（上） つなぐ人々』（臨川書店、2015年）などがある。

■ 水野博太（みずの・ひろた）

東京大学ヒューマニティーズセンター・特任助教。専門は近代日本思想史、特に明治期を中心とした漢学および「支那哲学」のあり方。論文に「井上哲次郎における「日本哲学」の存在証明とその失敗」（『日本思想史学』第52号、2020年）、「漢学と「支那」の距離——井上（楡原）陳政の「実用支那学」論を中心とした明治期の漢学改革論について——」（『中国哲学研究』第30号、2019年）などがある。

■ 後藤春美（ごとう・はるみ）

東京大学大学院総合文化研究科・教授。イギリス公文書館所蔵史料などを用いて、20世紀前半の国際関係史、イギリス外交史を研究している。著書に *The League of Nations and the East Asian Imperial Order, 1920-1946* (Palgrave Macmillan, 2020)、『国際主義との格闘』（中央公論新社、2016年）、『上海をめぐる日英関係 1925～1932年』（東京大学出版会、2006年）、『アヘンとイギリス帝国』（山川出版社、2005年）、共編著に『帝国の長い影』（ミネルヴァ書房、2010年）などがある。

■ 井坂理穂（いさか・りほ）

東京大学大学院総合文化研究科・教授。専門は南アジア近代史。植民地期インドの知識人たちの言語観、歴史認識、食をめぐる議論などを分析している。著書に *Language, Identity, and Power in Modern India: Gujarat, c.1850-1960* (Abingdon: Routledge, 2021)、共編著に『食から描くインド——近現代の社会変容とアイデンティティ』（春風社、2019年）、『現代インド5 周縁からの声』（東京大学出版会、2015年）などがある。

【編集後記】

東京大学ヒューマニティーズセンター（HMC）より、Humanities Center Booklet, Vol.13をお届けします。

本号はHMC企画研究「行動する人の歴史」の一環として実施されたHMCオープンセミナー特別回「語る力が権力を作る？—歴史からの問い—」(2021年7月9日オンライン開催)の講演録です。6章「黙る力、匿名性、あるいは新しい学問空間をどう想像／創造するか」は、セミナーでの討論をうけ、松方先生が新たに書き下ろしてくださいました。Covid-19感染拡大にともない急速に広まったオンライン討議の場が孕む問題（あるいは可能性）について、またHMCオープンセミナーの“オープン”について再考するきっかけをいただいたことに感謝申し上げます。

本号の編集に際し、江口絵理氏に多大なご協力を賜りました。また、文字起しにあたっては速記センターつくば様にご尽力いただきました。あらためて厚く御礼申し上げます。

HMC事務局（担当：和田真生）

Humanities Center Booklet Vol. 13

オープンセミナー「語る力が権力を作る？—歴史からの問い—」講演録

松方冬子 水野博太 後藤春美 井坂理穂

2022年3月20日発行

編集 東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター

江口絵理

発行者 東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学附属図書館4階

ISSN 2434-9852

印刷者 株式会社サンワ

フォーマットデザイン 株式会社編集家族

©東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター